

『コロナ禍での早朝日曜マラソン』

北斗市スポーツ推進委員会

少子高齢化が進む現在、人々の健康に対する意識がますます高まってきています。

スポーツは、スポーツ基本計画の中で「国民が生涯に渡り心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なもの」と位置付けられています。

北斗市においても、市民の皆さんが生涯を通じて明るく健康に過ごしていただくことを目的に、社会体育事業を推進しています。

北斗市スポーツ推進委員会・北斗スポーツクラブでは、社会体育事業の一つとして、市内5地区（本郷・七重浜・久根別・中央・谷川）で、早朝日曜マラソンを開催し、市民の基礎体力向上と健康な心身の増進保持を目指し、指導に当たっています。

伝統ある早朝日曜マラソン

北斗市の早朝日曜マラソンは、昭和51年から始まり、今年で45回目を迎えた伝統ある社会体育事業の一つです。

例年、5月から7月にかけて10回ほど行われていますが、新型コロナウイルス

の感染拡大防止のため、昨年は中止になりました。

今年においても緊急事態宣言の発令により、6月27日、7月4日・11日の全3回の開催となりましたが、マスクの着用、アルコールでの手指消毒、準備運動のラジオ体操は密集・密接を避けるように指導し、参加者が走り終えた後は速やかに帰宅を促すなど、感染予防対策に努めました。

今年度は、七重浜地区60名、久根別地区198名、中央地区26名、谷川地区31名、本郷地区11名の延べ326名の参加となりました。



間隔を空けてラジオ体操

連続7回の中止の影響が大きく、一年に比べ大きく減少しましたが、最終日には、参加された方全員に参加賞を渡し、健闘をたたえました。



みんな元気に走りました



家族での参加も多くみられました

地域と学校のつながり

日曜早朝マラソンは、走るコースが1キロメートル、2キロメートル、3キロメートルの3コースを設定していて、幼児から高齢の方まで、自分のペースで早朝のさわやかな日差しを受けながら走ることができます。

また、地域と学校のつながりを大切に進めており、久根別地区では、小学校が日曜早朝マラソンの進行役として、大きな力となっています。

子どもたちへ働きかけることにより、子どもだけではなく、家族、地域の方々へ参加の輪が広がっています。

小学校の校長・教頭先生にも参加していただいております。子どもたちへの温かい声掛けなど、とても和やかな雰囲気、学校とは違った交流が深められ、参加した子どもたちは素晴らしい笑顔で、心地良い汗を流していました。

新型コロナウイルス感染症が早く終息し、子どもたちが伸び伸びと活動できる日が来ることを願うばかりです。

（北斗市スポーツ推進委員会

委員長 安達 孝義）

